



米の高騰は抑えられるのか？

そのためのどんなことを
すると良いのだろうか？

SDGs × 給食

この課題を何故選んだのか

私はご飯を食べるのがとても好きです。だから最近のお米の高騰に対して嫌だと感じています。しかし米は高騰しているにもかかわらず学校では給食ではたくさんのお米が余ってしまっている、という状況になっています。だから、この給食残飯が余ってしまう状況をSDGsと結びつけて何か改善できることはないのかを調べてみることにしました。

疑問点 / 解釈

初めになぜ米が高騰しているのかを調べると、その原因は戦争による「燃料の高騰」や地球温暖化などによる「気候変動」があると知りました。戦争を止めるのは難しい、ならば気候変動の原因の一つである二酸化炭素排出量をどうにか減らしたいと思い、身近な給食の処分をするときの二酸化炭素をどう減らせば良いのか、再利用しても良いのかを考えることにしました。

そうしてSDGsの課題を調べていると、世界でもご飯を食べられない人々が多くいると知り、給食残飯をどうにか送ることはできないかと考えました。しかし先生によると衛生面や食文化の違い、そして飛行機では食品を運べない場合が多いことを考えるとそれは実現不可能だとわかりました。だったら給食の処分のときの二酸化炭素排出量を減らそうと思い、考えてみたところ「給食を余らせない」「処分方法を変える」という2つの方法を思いつきました。そこで、給食調理員さんに堆肥として利用したり動物の餌にしたりする方法は本当に可能かどうか、また発表のため・実際にどれくらい残っているかわかりやすいように、写真などをもらっていいかを聞いてみることにしました。

調査結果①

学校内にいる給食調理員さんにインタビューとアンケートに答えていただいたところ、毎日出る多くの残飯はすべて焼却処分しているとわかりました。また、この学校の中だけなら焼却処分ではない堆肥化などの再利用の方法に変えることはできるかもしれない、ともおっしゃっていました。そのため堆肥化や飼料としてリサイクルをする方法が使える可能性が高くなりました。そして全学年の給食のあまりの写真を見せてもらいました。20kg以上ある残飯を見て、自分自身も、給食がこんなに余っている、と言うことを実感していなかったと知り、これは全校生徒にしっかり見せて伝え・教えるべきだと考えさせられました。



改善方法

そこで私は給食ロスを堆肥として再利用することで、余ってしまう食品を減らすという対策を中心にリサイクルする方法を作りました。

学校で堆肥化を実施する時の流れの例

- 1、学校菜園にコンポスターを数個土の上に設置する。
- 2、学校の木から出る落ち葉と乾燥物を交互にいれ、層にする。
時折米ぬかなどの発酵促進剤も入れる
- 3、余った給食を細かくして入れる。
- 4、健康委員で日を浴びせるなどの管理をする。
- 5、後期になったらコンポスターから取りだし
空気に触れるように混ぜる（委員が時々混ぜる）
- 6、1年たったら取り出して完成！

調査内容 / 結果②

そのうえで給食調理員さんに「給食を堆肥化することに賛成かどうか、またその理由について」のアンケートに答えていただきました。その結果、多くの方が賛成であるという意見になりました。しかし、賛成と言った方の多くは「まず先に子どもたちにどう食べてもらうか」や「堆肥化することで逆に残してもいいや、と思ってしまう人が増えないか心配」という意見がありました。そのため堆肥化することで残飯をリサイクルする案を実施するよりも、集会やおたよりを用いて残飯の多さや少しでも給食を美味しくいっぱい食べてもらえるようにするというのを先に伝える方が良さそうという結果になりました。

実現可能かどうか 結論

委員会の経費で最初にコンポスター（堆肥にするために必要なゴミ箱のようなもの）を買うことは可能、と先生は話してくれましたが、堆肥化を実施するために1年近い長い時間と、多くの人・負担が掛かってしまうため恒例行事や伝統として定着するのはとても難しいと思われます。また、この学校はまずまず余っている給食の量が多すぎるためすべてを堆肥にはできないと言う点もあり、どのぐらいの給食を堆肥化するのかどうかの量を決めなければいけないこともあり、実現はまだ難しいという結論となりました。

そのためこの給食の堆肥化の計画の実施よりも先に、余ってしまう給食を少しでも減らす活動をした方が、学校でできるSDGsの第一歩になるだろうと考えました。だから学校内で集会発表やおたよりなどを用いて、「今給食がどれぐらい余っているかを知らせる発表」をしたり、「苦手なものも少しでも食べるようにする週間」などの楽しめる活動行ったりすることで、給食の残りを減らしいろんな子どもたちが少しでも美味しく食べられるようにするというを中心にした活動を進めることにしました。

ただ今回の調査により学校で堆肥化は不可能ではないことを知れたため、いつか実施をすることができるようになったら実施を検討してほしいと思っています。

探求ふりかえり

私はこの探究活動で学校で今まで決まっていたルールを変える難しさや、変えることでどんな人にどのような負担がかかるかそしてどんな利点があるのかを、総合的に考えて計画することの難しさを知ることができました。特にアンケートを取ってまとめることが難しく、今回の探求活動では難しいながら頑張れました。今回の活動で、学校がSDGsや食品ロスを減らす活動ができることを知れたのは驚きだったし、その改善策を考えるのは楽しかったです。

参考文献 JIJIドットコムニュース https://www.jiji.com/jc/tokushu?id=retail_rice_price_reiwa&g=eco
咲いたま、みっけ！ https://www.saitamaresona.co.jp/mikke/life/life_0033.html
武蔵野クリーンセンター <https://mues-ebara.com/topics/howto.php>